

口は健康のもと Vol.164

口腔がん ① ～早期発見～

この度『口腔がん』について3回にわたって寄稿させて頂く機会を頂戴しました。まず初回は、口腔がんの概略、早期発見の重要性とそのポイントについてご説明します。

口腔がんとは、口の中にできる悪性腫瘍のことで、舌がんや歯肉がんがあります。口腔がんは直接見ることができるので、とても発見しやすいがんです。CT、MRI、PET、腫瘍マーカー（血液検査）などで発見不能な早期がんさえも口の中を見るだけで発見できます。そして早期がんをきちんと治療すれば、90%以上の確率で助かります。にもかかわらず、残念なことに口腔がん患者さんの約70%は進行がんの状態になってから医療機関を受診されます。一般の方々に口腔がんの存在があまり知られておらず、病変に気づいても放置する方が多いのがその最大の理由です。

口の中の傷や口内炎が2週間たっても治癒せず縮小もしない場合、放置してはいけません。特に性状が均一でなく、少し汚い感じを受けるものは怪しいです。それは「口腔がん」かもしれません。是非お近くの歯科医院を受診してください。



奥羽大学歯学部附属病院

口腔外科 講師 濱田 智弘